

第 2 回協議会の振り返り

令和 5 年 3 月 14 日
静岡県地域公共交通活性化協議会事務局

富国有徳の理想郷 - しずおか
ふじのくに



1

目 次

- 1 第 2 回協議会の振り返り
- 2 第 3 回協議会までの実施事項

1 第2回協議会の振り返り

(1) 開催概要

日時	令和4年12月23日（金） 13:30～15:10
場所	県庁西館4階第一会議室（オンライン併用）
出席者	全委員70名中 出席委員67名 （うちオンライン参加45名）
議題	<ul style="list-style-type: none">・第1回協議会の振り返り、課題整理の進め方・県地域公共交通の現状分析・県地域公共交通ビジョン編（案）・課題の整理



3

1 第2回協議会の振り返り

(2) 議事概要

No.	項目	内容
1	第1回協議会の振り返り、課題整理の進め方	第1回協議会概要、主な意見、第2回協議会までの実施事項、地域分科会での意見課題整理の進め方
2	県地域公共交通の現状分析	地域公共交通の概況、地域公共交通の直面する現状、公共交通への意識、地域公共交通の現状分析（まとめ）、地域公共交通を取り巻く状況
3	県地域公共交通ビジョン編（案）	ビジョン編の策定趣旨、2050年頃の社会の展望、将来目指す姿とは、目指す姿の具体化イメージ、目的地（ゴール）の設定
4	課題の整理	目標・現状・問題、問題点の抽出、課題の整理

※ビジョン案について、ご了承頂きました。

4

1 第2回協議会の振り返り

(3) 静岡県地域公共交通計画ビジョン編まとめ

1 策定趣旨 2050年頃に照準を合わせ、「将来、目指す姿」を描き、その具体的なイメージ及びゴールを掲げる。	2 2050年頃の社会経済の展望 超高齢化社会 交流人口の拡大 SDGs 脱炭素社会 地域公共交通ネットワークの再構築	IT+ネットワーク 移動の変化 輸送の変化 地域モビリティの刷新		
3 将来、目指す姿 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> “ふじのくに”デジタル田園都市の実現 </div> 本県の有する「場の力」を最大限に活用し、デジタル田園都市の実現を目指すもの		4 目指す姿の具体化イメージ 持続可能な社会を支える公共交通 誰もが移動に困らない質の高いサービスの提供		
5 目的地（ゴール）の設定・・・目指す姿が実現したとき、私たちの生活はどう変わるのか				
目的地 1 好きな時 好きな場所へ	目的地 2 安全・安心 ・快適	目的地 3 最適な 移動手段	目的地 4 交流の 利便性向上	目的地 5 地域の誇り (シビックプライド) ⁵

1 第2回協議会の振り返り

(4) 主な意見等・対応状況（1/3）

項目	主な意見等	対応状況
データ更新	現状分析にあたって、全国のデータではなく当該地域でのデータが欲しい。	【継続検討】 順次、当県における最新数字への更新を図る。 前は公表数字を基に現状分析を行ったが、当県データ把握にあたり、協議会員の皆様には調査回答に協力をお願いする。
	資料で挙げられている現状は、コロナ禍の特異な状況。この状況が改善されても、ビジョンに近づくにはまだ足りないモノがあると考えられる。	
	直近までのデータを集めた上で発射台にしないとミスリードになってしまう。	
目標設定	中長期の公共交通が目指すところは、もう少し具体的な方が良い。	【継続検討】 ビジョンは、目標と言うよりも、もう少し遠い将来にこうあったら良い、という理想像として掲げた。中間となる10年後等の姿については、もう少し具体的な到達点のイメージを示して、意見を伺っていく。
	近未来的な5年とかのあり方、ネットワークを表現できると分かりやすい。	
	現状ベースで改善の目標が立てられる10年後くらいで一区切りを設けるべき。	

1 第2回協議会の振り返り

(4) 主な意見等・対応状況 (2/3)

No.	主な意見等	検討状況
課題抽出	現状分析で抽出された課題は、喫緊の課題であり、プラン編での検討項目。	【継続検討】 把握した課題に対して、今後、具体的な施策の検討につなげていく。
	公共交通に乗ってもらうためのPRや広報活動が取組まねばならない課題。	
	30分、1時間に1本の運行ダイヤでも待つて頂ける風土やマインドを利用者に持つて頂くのが重要。	
	今一番大きな課題はエネルギー価格高騰に伴う動力費の増加。	
	運転手だけでなく技術系職員全般が不足している。一過性でなく今後も継続していくであろうと危惧している。	
日本全国の人口が減少していく中で、インバウンドの取り込みが課題。		

7

1 第2回協議会の振り返り

(4) 主な意見等・対応状況 (3/3)

No.	主な意見等	検討状況
その他	災害をどう防ぐか、災害が起きたときにどう対処するか、というのは重要な課題。	【今回意見照会】 災害対策・対応について、現況を把握し、計画への記載を検討していく。
	県民アンケート結果を見ると、工夫すれば公共交通を利用してくれる人が、潜在的には結構居ると感じる。	【今回提示】 県民アンケートの詳細分析を今回提示する。
	公共交通を地域の財産として、積極的に官と民が関わっていくことを計画に記載すると意識が変わっていくのではないかと。	【継続検討】 計画への記載を検討していく。
	ミニマムの「足を守る」議論と、ビジョンに基づいた「前向きな」議論を混在させず、しっかり両方行って欲しい。	【継続検討】 両者を混在させないよう注意して議論を進めていく。

8

2 第3回協議会までの実施事項

(1) 地域分科会の開催

西部地域分科会	令和5年1月31日（火） 14:00～16:00
中部地域分科会	令和5年2月3日（金） 14:00～16:00
東部地域分科会	令和5年2月6日（月） 14:00～16:00
伊豆地域分科会	令和5年2月2日（木） 14:00～16:00

議 題	<ul style="list-style-type: none">・ 第2回協議会の振り返り・ 県民アンケート結果・ 県地域公共交通計画骨子（案）・ その他
-----	--



伊豆地域分科会（2/2）

9

2 第3回協議会までの実施事項

各分科会での主な意見・提案

(県民アンケート)

- ・ 公共交通の利用で「到着時刻の遅延」を不安に思う人が多いが、利用目的が通勤・通学なのか買い物なのか等により、回答は変わると思う。
- ・ 「最低限求める運行間隔」は市街地と山間部でも異なるはず。地域毎の傾向分析をすべき。

(骨子案について)

- ・ 「安全・安心・快適」の目標に、「事故件数」「渋滞箇所数」の指標はなじまないのでは。
- ・ 「渋滞の解消」のように自分たちのできない範囲に依存した指標を設定するのは間違っているのではないか。
- ・ 目標と施策のつながりがおかしい箇所が見られる。目標「安全・安心・快適」と施策「運転手の募集」や、目標「最適な移動手段」と施策「公共交通を使わない方を対象とした情報提供」など。

(災害対策・災害対応について)

- ・ 災害対策の記載に当たっては、災害時交通マネジメント検討会を基にした建て付けとしていただきたい。
- ・ 交通事業者（バス・鉄道）各社のBCP計画は、策定済みと策定中が約半数ずつ。1社のみ未策定。策定中の事業者もグループ会社等と連携して策定中。
- ・ 災害対応については、自治体毎に防災計画があるため、細かな記載は不要。